

留 学 報 告 書

学 部 法文学部 言語文化学科
氏 名 鶴房 賢弥

1. 留学先大学・学部 国名 アメリカ
大学名 フロリダ大学
現地到着日 (2017年 8月 9日) 授業開始日 (2017年 8月 21日)
現地出発日 (2018年 5月 9日) 授業終了日 (2018年 4月 25日)
2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

主な手続きとしては、TOEFL の受験、VISA の取得、フロリダ大学に送る書類・手続き (授業関連、健康診断の書類など)、寮への申し込みなどです。健康状態が良好であることを証明するために、健康診断証明書を発行しそしてさらに予防接種を受けなければいけません。それらについては、想像以上に時間がかかるので、早めに取り掛かることをお勧めします。

3. 自宅から留学先大学までの交通手段 (乗物の種類, 乗り換え地, 所要時間)

私は、フロリダに行く前にサンディエゴに友達いたので、そこで5日ほど過ごしてからフロリダ大学があるゲインズビルに行きました。日本からは実家から最も近かった関西国際空港を利用し、ロサンゼルス空港まで12時間ほどかけて渡米しました。そして、フロリダへ行く際には、サンディエゴ空港からオーランド空港まで約5時間、そしてオーランド空港から友人が迎えに来てくれて二時間かけてゲインズビルに到着しました。

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

特に手続きはありませんでしたが、授業が始まる前には交換留学生を対象にオリエンテーションが一度だけありました。

5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

オリエンテーションの内容は、これからの交換留学についての心得や注意事項の確認などで、英語等のプレースメントテスト等のテストはありませんでした。

6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

私が受講していた授業は一回の授業につき50分、週三回のペースで行われるものがほとんどでした。ですが、他にも週二回しか行われない授業などもあります。授業の受け方としては、予習の出来が授業の理解度を大きく変えると行ってもいいかもしれません。毎回の授業で課される課題や、シラバスで何を次回の授業では行うのかということを調べ、次回の授業内容を理解した上で授業に参加すれば、授業に積極的に参加することが可能であると思います。特に、留学生には語学的な観点から予習を行っていないと、実際に授業内容を理解するのに苦しむのではないかと思います。試験については、日本の大学とさほど大きな違いはありませんでしたが、テストの頻度は多く感じました。授業によって、テストの頻度は異なりますが、一学期に4回ほどテストが行われる授業もありました。

7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、後輩に勧めたいもの

私は、Public speaking という授業を秋学期に受講していました。スピーチの構造や過程を学んで行くうちに、徐々にどのようにしてオーディエンスの興味を引き出すかなど考えながら、スピーチを行っていくようになりました。それと同時に、20人ほどのクラスではあったが人前で英語を堂々と話すというスキルも身につけられたのかと思います。スピーチの回数を重ねて行くうちに、オーディエンスへのアイコンタクトを行う余裕ができたり、反応を伺ってみたりスピーチを楽しむこともできました。

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

私は、Weaver Hall というキャンパス内にある寮に住んでいました。この寮は、交換留学生と現地の生徒たちによって構成されています。部屋のタイプとしては、シングル、ダブル、トリプルとありましたが、私はやはりルームメイトとのコミュニケーションを増やしたいと考えていたため、ダブルルームを選択しました。そして、語学スキルの向上や異文化交流を行うことを目的として、ダブルルームやトリプルルームに住んでいる交換留学生は、必ず1人の現地生のルームメイトを持つことを定められています。英語での会話は自然と増えて行くと思いますが、自分のプライベートスペースが確保できないため、ルームメイトを持つか持つべきではないかの好みは大きく別れると思います。そして、寮内には共同キッチン、シャワー、リビングなどが設備され、不自由なく生活を送ることができました。また、大学へは非常に近距離のため、徒歩で行くことができます。住居を選ぶ際には、やはり自分のスペースが確保できるかどうかということが大きく選択を左右すると思いますが、個人的には交換留学期間に寮でルームメイトを持つというこれまでとは違った暮らしを経験してみるといいと思います。

9. 寮・アパート生活での注意，生活の様子（行事など），困ったこと，ルームメイトとの付き合い方，
（いつから入れるのか，寮の開閉，寮が閉鎖中の滞在場所等）

唯一困ったこととしては、スーパーと少し距離があるという問題です。私は秋学期にはミールプランに加入していたため寮の横にあるダイニングホールで三食の食事をしていましたが、春学期に入ると、自炊にチャレンジにしてみました。そのため、スーパーマーケットへの買い出しが必要でした。しかし、スーパーマーケットは徒歩で約20分の距離に位置しているため少し大変でした。また、休暇期間に入ると寮自体が閉鎖してしまうため、寮を出なければいけません。その場合は、旅行へ行くなどして、休暇をうまく利用していました。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について
（どのような口座を利用したか，現金とかカードの利用は，自宅からの送金はどうしたか等）

現地ではあまり現金を利用しないので、銀行の口座を作り、デビットカードでの支払いを行っていました。また、銀行内の現金が少なくなった際には、日本から送金を行ってもらっていましたが、私の場合、日本の銀行からアメリカの銀行の口座に送金することはできなかったため、western union と言われる機関を通じて、日本からのお金をアメリカドルで現金として受け取り、そこから預金するという形で行っていました。

11. キャンパス案内（どんなとき、どこへ行けばよいか等）

基本的には、International Center にいけば問題解決を行うために、どこにいけば良いかというこ
とまで教えてくれると思います。

12. 現地案内（買物、銀行、レストラン、理髪店、美容院等の様子）

買い物の際は、walmart もしくはキャンパスの近くにある publix で食材を購入していました。
Walmart と publix は比較的安いと思われませんが、健康面などを考慮しやはりいい品質で食料を得よ
うとすると、organic store がもっともいいのかと思います。散髪の際は、キャンパス近くある 1
2 ドルでカットをできる散髪屋に通っていました。

13. 失敗談（どんな小さなことでも）

フロリダ州は温暖であり、夏服の持参で十分であるだろうと思っていましたが、想像以上に気温変
化が激しかったため、冬物の持参も忘れるべきではなかったと後悔しています。

14. 病気になった場合の対応について（医療費はどのようになっていたか、保険等はどのようにし
たか）

インフルエンザになった際には、UF Health という比較的近くの病院に行きました。治療措置など
に関しては全く問題はなくインフルエンザを即座に治療してくれました。しかし、日本ではみたこ

とのない値段の医療費の高さには驚きました。インフルエンザの治療だけではあったものの、20万円ほどの請求書がきていました。私は保険に加入していたため、医療費を払わなくて済みましたが、万が一のためぜひ保険の勧誘をお勧めします。

15. お世話になった方々

寮の友人、大学の授業で知り合った友達、教授など

16. 留学先国内旅行について（場所、手段、費用、旅行社等）

学期前にはサンディエゴに、学期中には、ニューヨーク、マイアミ、シカゴ、トロント、学期後にはサンフランシスコを訪れました。様々な地域を旅行しているうちにその土地特有の雰囲気の違いなどが感じられましたが、特にやはりニューヨークは世界の中心であることから多忙なイメージがありました。

17. 気候と服装について

比較的温暖な気候ではありますが、冬服の持参も必要であると思います。12月、1月は非常に冷え込む時期もあったため、冬服の持参もぜひおすすめします。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの（学用品、衣服、食品、薬、運転免許証等）

日本食が恋しくなるという人は、カップラーメンや即席食品を持って行くといいと思います。個人的には持って行きませんが、現地で調達したことはありました。

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書，旅行案内書を含めて）

特にありません。

20. ホームステイの依頼方法

以前フロリダに来た際にホームステイで滞在させてもらった家族と連絡はさせてもらいましたが、スケジュールがなかなか合わず、結局会うことはできませんでした。

21. 留学費用について

1) 旅費	(往) <u>11万</u> 円,	(復) <u>4.5万</u> 円
2) 準備費用		<u>10万</u> 円
3) 大学へ納入する費用		<u>57.5万</u> 円
授業料 (年間合計)		<u>53万</u> 円
保険等その他の費用		<u>4.5万</u> 円
4) 住居費 (光熱費等含む)		<u>90万</u> 円
5) 衣服代, その他雑費		<u>7万</u> 円
6) 帰国時の土産代, 郵送料等		<u>1万</u> 円
7) 留学先国内旅行費用		<u>25万</u> 円
8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額		<u>210万</u> 円
現地通貨 <u>\$1910</u>	日本円換算	<u>210万</u> 円

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

渡米の際には、一つしかキャリーケースを持参していませんでしたが、帰国の際に荷物が増え一つのキャリーケースに収納できなかったため、現地でもう一つ比較的安価のものを購入しました。

23. 留学して得たこと（全般についての感想文）

私は、まず初めにフロリダ大学交換留学を通して学んだことは明らかに語学面での向上であると思っています。もちろん、TOEFL の英語試験で一定のスコアを取得することで英語スキルに対して、少なくとも自信がつき、いざ留学となっても語学で困ることはないだろうと過信していました。しかし、実際に現地につき、留学生活が始まると国際センターの人々、友人、もちろん教授が授業で話す英語は想像以上に早く、理解に苦しみました。私が留学以前から持っていた英語に対する自信やこれから英語に対するモチベーションなどが失われ、自分が今後英語を向上できるのか不安でした。しかし、自分自身について振り返り、そのような状況で時自分がなぜわざわざフロリダ大学に多額の費用と時間をかけて勉強をしに来たのか、そして当初の留学目的までも問うようになりました。そうすることで、自分の英語に対する姿勢が徐々に変化しました。たとえ、人が言っていることが聞き取れなかったりしても、以前は行なっていなかった、「もう一度聞き直す」という動作を行うようになり、聞き取れないことがあっても相手がもう一度私が聞き取れるように言い直してくれました。そのため、自分のリスニング力が向上したと共に、相手の話に忠実に耳を傾けることによってコミュニケーションスキルが大きく変化したと思います。些細な意識の変化とそれによる行動であるが、その小さな変化が私の英語のスキルを大きく向上させてくれました。英語スキルとそのような苦境を乗り越えることで、自分のメンタルも随分とタフになった気がしました。また、留学の経験を通じて見た日本という国は様々な点で以前と異なった様に見えました。日本にはアメリカでは発展していない新幹線やまた定められた時間帯に必ずくると言える電車またバスなど多くの交通機関が発展しています。実際に、車社会のアメリカで車を所有していないことでより、日本の交通網の利便さを実感するきっかけとなりました。そして、次にやはり貧困の差の違いです。私は、アメリカで多くの場所に旅行で訪れましたが、どの地域にも日本で見たことないホームレスの数を見受けられました。ほとんど人々が路駐に座り込み一般の人から募金を求めている中、中に

はお金を欲しがらるあまり話しかけてくる人々もいました。日本では見ることのできなかつた光景を目にして私はカルチャーショックを受けると同時に、日本がいかに豊かな国であるかを再認識しました。フロリダ大学での交換留学を通じて、語学的な面、再認識した日本という国の素晴らしさを学びましたが、その次のステップでこの経験を活かさなければいけません。自分がどのような場面でこれらの経験が活かせるかは未だに明確ではないですが、この経験は今後の自分の人生の大きな糧になると思います。